

## 第9回岡崎市立地適正化計画懇談会 会議録

- 1 会議の日時 平成31年2月13日(水) 午前10時
- 2 会議の場所 岡崎市役所西庁舎 7階701
- 3 会議に出席した委員(11名)

|       |    |                        |
|-------|----|------------------------|
| 松本 幸正 | 委員 | (名城大学工学部 教授)           |
| 小川 英明 | 委員 | (愛知産業大学 名誉教授)          |
| 山本 勝  | 委員 | (岡崎市社会福祉協議会 事務局長)      |
| 吉岡 実  | 委員 | (名鉄バス株式会社運行部 運行課長)     |
| 宮本 一彦 | 委員 | (岡崎市六ツ美商工会会長)          |
| 山中 賢一 | 委員 | (岡崎商工会議所 専務理事)         |
| 石井 美紀 | 委員 | (都市計画審議会 市民公募委員)       |
| 片桐 政勝 | 委員 | (都市計画審議会 市民公募委員)       |
| 片山 貴視 | 委員 | (愛知県都市計画課 課長)          |
|       |    | ※伊藤 渚 技師 代理出席          |
| 大野 伸二 | 委員 | (西三河建設事務所 企画調整監)       |
| 地下 調  | 委員 | (国土交通省 中部地方整備局 都市調整官)  |
|       |    | ※池口 政穂 計画管理課 課長補佐 代理出席 |
- 4 説明等のため出席した事務局職員及び関係部局職員
  - (1) 事務局職員

|                  |       |
|------------------|-------|
| 都市整備部長           | 靱井 泰晴 |
| 都市整備部 次長         | 杉山 弘郎 |
| 都市整備部 参事         | 柚谷 正樹 |
| 都市整備部都市計画課長      | 新井 正徳 |
| 都市整備部都市計画課企画調査係長 | 鈴木 智晴 |
| 都市整備部都市計画課企画調査係  | 今野 正幸 |
- 5 開会
- 6 会議内容
  - (1) パブリックコメントについて
  - (2) 将来人口資料の整理について
  - (3) 改定案について(前回懇談会より変更した部分)
  - (4) 今後の予定について

事務局より説明後、次の主旨の質疑等がなされた。

## (1) パブリックコメントについて

・名鉄バス岡崎安城線について、市の具体的な考え方を教えてほしい。

(⇒事務局：調整区域の路線を計画に基づいて廃止するのは考えづらい。むしろ、地域拠点のアクセスとして検討するという視点もある。一方で、今後の公共交通の計画も見直していくため、バスのネットワークはどのようなものがふさわしいか考えていく必要がある旨説明。)

・最近、公共交通の廃止がニュースになっている。公共交通が求められている割には、当事者の負担が大きくなっている。市民の意見に対して、素直に対応することについては疑問がある。

・決して居住誘導区域以外に鞭を打って住むなというわけではない。逆に居住誘導区域には餞があるということで、緩やかな誘導を行いたいということである。

・もう1点は、バスのネットワークについては広域的なつながりが大事であり、2つの市を結ぶということに関しては別の意味がある。

・岡崎安城線は、広域的な路線として位置づけられている。利用者は少ないが、地域間を結ぶ基幹幹線系統という位置づけもある。隣接する市町とも調整しながらネットワークについて時間をかけて考えていきたい。

・概要版について、理念としては良いのだが、誘導していく考えだけ示されおり、餞の部分が表現されていない。市民としては、日常生活の利便性を保ってほしいと思っている。

日常生活の利便性を維持していく中で、他から入ってくる人、誘導を凶っていく人、既存の方たちのバランスを明確に示してもらえれば安心感が出る。高齢化で車が運転できなくなった時に行動範囲が保てるように、交通ネットワークを残していくということを示してほしい。

・パブリックコメントの回答については特に異論はないようなのでこのままでいく。概要版については後程議論する。

## (2) 将来人口資料の整理について

・まず、資料2は本編、概要版に添付されるのか、それとも、懇談会に提出される資料なのか。

将来人口および想定増加人口の整理について、2ページ目の転入超過736人という実績値に対し、1ページ目の想定増加人口では5千人以上を目標としており、その差が大きく、若者に対する積極的な施策が必要だと思う。

市街化調整区域の拡大市街地の整備についてはあまり触れられていないが、立地適正化と相反する概念が出てきている。

(⇒事務局：資料2については、懇談会の参考資料としている。必要があれば資料編に入れることを考えたい。

重点区域の社会増については、7,000人規模の転入と同様の規模の転出が実態になる。

現時点では都市機能誘導区域の施策とあわせて取り組んでいきたい。

市街化調整区域の拡大市街地については、本編 42 ページ第 4 章内に、増加する人口への対応について記載している。この記載で都市計画マスタープランのフレームと整合を取っていきたいと考えている。計画的な新市街地形成により人口増加に対応したい旨説明。)

- ・資料 2 を資料編に盛り込むのであれば、表だけではなく解説があるとわかりやすい。

施策の居住誘導区域が空欄になっている。重点区域については、高齢者の移動はあまり考えられないため、高齢世帯に対する施策はあまり無いのではないかと。

市街化区域に収容できない人口が 7,200 人となっている。居住誘導区域の中で収容していくことを最優先とするべきではないか。別の視点で、地域に住む人の生活を維持するために拡大市街地を広げるといった方がよいのではないかと。

(⇒事務局：資料 2 については、公表する予定ではなかったもので必要であればわかりやすく修正する旨説明。)

- ・数字を見て検討することは大事だが、この資料が独り歩いてしまうのは心配である。この懇談会の記録として残すのではどうか。

- ・自分たちの地域は今後どうなるのかという視点で市民は資料を見る。この資料を使うのであれば検討する必要がある。

- ・必ず載せる必要はないので事務局に一任する。資料編に載せるのであれば検討が必要である。

- ・若者に対する施策をどう取り入れるか。目標実現のためには無視できない。20 代の人たちがこれから働こうと思えるストーリーがいる。

(⇒事務局：20 代に特化した施策は難しいが、子育て世代に岡崎市の多面的な魅力を伝えていきたい。)

拡大市街地について表に目標人口 384,802 人とあり、社人研の推計人口と同程度である。この数字は、拡大市街地を除いた数字である。岡崎市の人口ビジョンでは、人口はまだ伸びるのでこのままでは 7,000 人が収容できない旨説明。)

- ・それは目標数値の密度に対して不整合はないか。

(⇒事務局：誘導区域が 95、重点区域が 100 という設定の上で 384,802 人としている旨説明。)

- ・居住誘導区域、居住誘導重点区域に集めたがそれでも足りないから拡大市街地ということ。

- ・拡大市街地は市街化調整区域、居住誘導区域外、居住誘導区域どこに入るのか。

(⇒事務局：今後新市街地で拡大していく場合は居住誘導区域になっていく旨説明。)

- ・市街化編入して居住誘導区域にするということを書いておく必要がある。

### (3) 改定案について（前回懇談会より変更した部分）

- ・概要版の居住誘導区域の施策がわかりにくい。居住誘導区域の前に説明文があるとわかりやすいのではないか。

(⇒事務局：紙面の使い方を工夫して見直しをする旨説明。)

- ・都市機能誘導区域に比べて文字が多くて、色味もない。
- ・概要版なので、ビジュアルで直感的に分かれないと市民には伝わらない。
- ・本編も同じく都市機能誘導区域にはイラストが多く入っていて見やすい。概要版はわかりやすく見直してほしい。
- ・概要版の目標と評価方法の都市機能誘導区域における低未利用地面積の割合が本編と違う。間違いではないか。
- ・市民意識調査における「安全社会の構築」の満足度が現状値と目標値が共に36%となっている。また、立地適正化は安全社会構築のために行うのかということに違和感がある。評価、目標の数値を見るとあまり変わらないため、概要版ではわかりづらくなっている。内容を少し補足した方がいいと思う。

都市機能誘導区域の図で都市拠点と準都市拠点の色がわかりづらい。

(⇒事務局：間違いについては修正する。第5回PT調査では鉄道駅の乗車数は減少傾向にあるという予測があったと思うが、このまま何もしないのでは減少しつづけてしまうため、目標として記載している。もう少し具体的に示せるように検討したい旨説明。)

- ・このまま何もしない場合もっと減っていくが、できるだけ現状維持できる努力はするなど、もっと言っても良いと思う。

- ・現状値については、このままだと減少することを書けばよいと思う。市民意識について、悪化するという合理的な説明はあるのか。市の決意表明になっていないか。

安全社会の構築という文言に対してはどうか。

- ・岡崎市は維持できる期間があるものの、その先は下がっている。では、その時代を見据えた上で市として何が提示できるかを考えると、質の向上になるのではないか。そのことについて触れれば、少しイメージしやすいのではないか。岡崎市が良いと思えるものがほしい。

(⇒事務局：市民の満足度は向上させる努力をしたいと考えている。安全社会の構築については、市民アンケートの項目を基に設定した旨説明。)

- ・立地適正化計画の効果測定の指標としては、説明が足りない。
- ・都市の魅力の向上の方が良いのではないか。

・満足度が36%は低いのではないかと。指標として適切ではないのではないかと。将来に対して良いイメージを持たせるのであれば、表現や設定を考えたほうが良い。

・目標値は40%とするが、指標は安全社会の構築にするのか、都市の魅力向上にするのかを考えたほうが良い。

・住宅マスタープランのときに、岡崎市は住みよいまちであることを前提としていた。住みたくなる、より住み続けたいとなるというような指標であればよい。

(⇒事務局：意識調査では住みよいまちだと思うかどうかを聞いている項目があり、「住みやすい」、「やや住みやすい」と答えた人が83%ぐらいになっている。今後の居住継続意向も聞いており、83%となっている旨説明。)

・住みやすさ、が指標としては一番わかりやすいだろうが、劇的な向上を求めるのは難しい。立地適正化計画の趣旨からすると、「住み続けたい」の項目の方が適切ではないかと。

(⇒事務局：平成18年から調査し続けている項目である。居住の継続意向に修正させていただく旨説明。)

・過去の平均を出すなどして、それを上回る目標値の設定をすると良い。

図面上の色に関しては修正していただくということによいか。

(⇒事務局：修正する旨説明。)

・本編の90ページの矢印の位置をずらし、誤解がないようにすべきだと思う。

(⇒事務局：修正する旨説明。)

・拡大市街地について、42ページに市街化編入を図っていくということを記載するということがよいか。

・拡大市街地の定義自体がよくわからない。資料編などに入れるとしても意味が必要になってくる。拡大市街地が居住誘導区域に入る想定であれば除いておいた方がよい。将来像としては、市街化区域内の居住誘導区域外の市街地や市街化調整区域に残る市街地をどうしていくかが課題である。拠点として整備をしていくのであれば、もうすこし書き込んで良いのではないかと。

・市街化区域内の居住誘導区域外の市街地や市街化調整区域に残る市街地については、その他のコミュニティの形成など他の施策で維持を図るという記載があるため、立地適正化計画の中で触れなくても良いのではないかと。資料編に入れるのであれば記述を検討したほうが良い。

・岡崎は住みよいまちだということを市民は思っており、これは岡崎市の誇るべき点である。その部分を前面に出しつつ、それを維持・向上していくことを紙面に出しても良いと思う。

以上。